

# 令和4年度第3回草津市文化振興審議会 会議録

▼日時：

令和5年2月22日（水）13：00-14：00

▼場所：

草津市役所 6階 教育委員会室

▼出席委員：

松本会長、大塩副会長、五十川委員、澤委員、富田委員、涌井委員、内山委員、西村委員、中村委員

▼欠席委員：

成田委員

▼事務局：

増田部長、田中副部長、上原生涯学習課長、岡田生涯学習課長補佐、松岡主査、木内主任

▼傍聴者：

0名

## 1. 開会

---

【部長挨拶】

皆様、本日はお忙しい中、御出席をいただきましてありがとうございます。

また、委員の皆様には本市の文化振興に御支援御協力賜り厚く御礼を申し上げます。

さて本日は今年度3回目の審議会となります。

前回は文化振興計画の成果指標について御審議をいただきましたが、今回はこれまでの議論を踏まえまして事務局で作成をいたしました本計画の中間評価の案について、その内容について御確認をいただきたいと考えております。

委員の皆様には忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げます。

また、会議の後半では草津宿本陣と街道交流館の視察も予定しております。

大変長時間になりますが、本日もどうぞよろしくようお願い申し上げます。

## 1. 審議事項

---

### 審議事項（1）「草津市文化振興計画の中間評価」

#### 【会長】

今回は、これまでの会議で出た意見をもとに、中間評価の報告書案について審議いただく。それでは、事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局】

<資料に基づき説明>

#### 【会長】

重点プロジェクトのうち、③ふるさと草津の心プロジェクトがちょっと遅れている。コロナでイベントができなかったという要因もあるが、2類から5類に変わってやりやすくなるのでは。

文化の次世代への継承という面で、草津は人口がまだ微増しているところで、草津に住んで良かったと思えるようなシビックプライドの醸成は重要だと考える。

#### 【A 委員】

サンヤレ踊りを含む風流踊がユネスコの無形文化遺産に登録され、シビックプライドが醸成される一つの出発点になるかと思う。

学問の研究成果をどのように活用して展開していけるのかをうまく表現できればと思う。

#### 【副会長】

学問的に集めた知見を世の中にどのように還元していくのかというのは常に考えていることである。学問として集めた知見は学問のテクニックを踏まえて理解できるようになっているので、様々な手間をかけて、全ての人たちと協力して外に出していく必要がある。エネルギーも時間もかかるものではあるが、それをやることで文化をより深く知って活かしていく、もう少し別の言い方をすると楽しんでいくということに一番近いのではないか。

#### 【B 委員】

文化ホールは舞台と展示ホールを兼ね備えているが、もちろん文化振興計画におけるプロジェクトを念頭においてプロデュースをしているところである。例えばミュージカルを通して草津の歴史や文化を知ってもらえるようにしている。

入口は舞台芸術であったりするけれども、入った人にそこから広がるものを吸収して帰ってもらうというスタイルでいつもやっている。毎年50人、100人とかそういう子供たちが関わって、草津の歴史とかを知ってもらっているという点も評価してもらえれば。

**【会長】**

文化的な事象の評価は数ではないということかと思う。

**【C 委員】**

就学前の教育に関して言うと、文化活動の参加の機会の差が出ているのと同時に、子供たちの体験の差、経験の差はものすごく幅が広がっている。出かけている子供たちは、いろいろなことを吸収して表現が豊かだが、やはり体験の差というのはものすごくあらわに出ているので、中間評価にも書かれている重点プロジェクトの1、未就園児の対象の事業展開というのは大いに期待をするべき内容だと思う。かつ、親子での経験・対話というのが就学前には影響が大きいので、子供たちだけではなく親子での経験ができるような機会があれば。

**【会長】**

子供だけではなく親子で、というのは同感。

**【D 委員】**

コロナ禍の中で、人に伝える場というのが全部シャットアウトされてしまった。合唱なども無観客でやっておられた。展覧会でも自分たちの作品について今年度は展示できたが、見に来る人がほとんどいない中で不完全燃焼という感がある。作品を通して伝えていく、共感を求めていく、共感することによって新たな一歩を踏み出す人をつくっていくという部分が困難になっている。

こういう状況の中で辞めていく人もいるので、立ち直る難しさをこれから感じていくことになると思う。

**【E 委員】**

この審議会で紹介いただき、アートフェスタくさつと市美術展覧会に参加させてもらった。あおばなの特別展示をしていたり、くさつブランドの展示をしていたりと次を見据えた活動をされていると感じた。美術展覧会に関してはイラスト部門があり、今までに無いような展覧会になっていたのではないか。今はインスタとか色々なものがあるが、美術展覧会というどうしても昔のイメージの展覧会を考えると、若い人に興味を持ってもらえるような、草津市の展覧会は何かちょっと違うな、という展覧会が考えられれば、見に来る人も増えるのでは。

**【事務局】**

イラスト部門については特別企画という形で去年から始め、今回が2回目だったが、昨年度に比べると出品も増え、若い方の出品も増えており、狙っていたところがあったと思う。試験的に3年間を期間として開催しており、現在は6部門が正式な部門であるが、イラストを新たな部門とするか、今後実行委員会で検討していく。

**【F 委員】**

未就園児を対象としたアートスタート事業は、一番大切ではないかと思う。子供を育てていくのが一番のポイントだと思う。

サンヤレ踊りも地区に街中に旗がたくさん立っており、地域によっても違うとのことで大変興味がある。

草津ブランドの話もあるが、市のブランド力を高めて、「大津の隣の草津」ではなく「草津市に住んでいる」と言えるようになりたい。

あと、文化庁が京都にやってくるが、滋賀には何か恩恵は無いのかと思っている。

**【会長】**

あおばなは草津らしい、街道文化の影響も受けている文化だと思う。

**【G 委員】**

障害者福祉センターでも、毎年ふくふく展というものを開催しており、作品の展示はコロナに関係無くやれているが、歌うことや演劇鑑賞等の機会については、障害者でマスクの着用が難しい方等もいることから難しくなっている。

5月から5類になったとしても、障害のある方はなかなか皆さんと一緒に、というのは難しいのではないかと考えている。

ただ、今回の中間評価の資料で思ったのは、計画自体がコロナ前から存在しているので、コロナ前はどうかだったのかを書き加えても良いのではないか。

**【会長】**

障害者による文化推進の法律もできており、鑑賞だけではなく創造したり表現したりという権利も述べている。障害者の文化振興は今が旬だと思う。

**【A 委員】**

発掘調査をやった後に現地説明会をするが、コロナの影響によってここ2～3年はできていない。考古学の姿を見せる意味で現地説明会はすごく大事な事で、今は少しずつ戻ってきているが、最近は来るのはほとんど高齢男性のみとなっている。

**【副会長】**

前回の審議も踏まえて、現段階では文化振興計画を見直す必要はないという結論ではあるが、ここ数年で生活様式が変化してきている。その為に評価を今後どうしていくか考えていく必要があることが示されている。大変だろうが頑張っていかなければならない。

重点プロジェクト3について、中間評価においても、今後、特に頑張るところだということだが、ユネスコに風流踊が登録されたのは非常に嬉しい事で、今後アピールしていかなければならないところ。

市美術展覧会でイラスト部門を盛り込んだら若者が増えつつあるということで、嬉しい話だと思う。歴史というのはどの世代にとっても常に共通した話題になるものなので、若い世代から関心を持ってもらう必要がある。

国際的な組織というものに子供たちは結構反応するもので、最近では SDG s に結び付けて理解しようとしたりする。国際機関が関わるというのは子供にとっても何か響くものがあるのではないか。ユネスコにも登録されている草津、と言えるので、何かできれば良いと思う。

### 3. 閉会

---